



第 112 号
 発 行 者
 退職校長会石川支部
 富岡高春



「最近思うこと」

支部長 富岡高春

高校時代からの親友から奥様の喪中の挨拶状が届いた。実は四、五年前から突然音沙汰なく心配していたのでやっぱりなと電話にてお悔やみ申し上げた。奥様は認知症で徐々に物忘れが進み、特に、日中や夜の徘徊、時には電車に乗って見知らぬ地で保護されることもしばしばだったそうだ。彼との会話から、六年間一人で日常の介護をする心労は想像を絶し、相当疲弊している様子が伝わってきたが「やるだけはやったよ」と。

慣れた地域で安心して暮らしていただけるような介護施設の充実や地域連携の場と機会を設けてきているが、まずは、本人・家族が自分事として日常的に関心と予防に取り組んでいくことが大切だと感じる。認知症リスクを下げるには、人とのコミュニケーションが一番大事。そして健康増進には「歩くこと」が良いそうだ。趣味を通じた活動や地域貢献活動で人との繋がりを大切にしたり、食生活や睡眠時間の確保等家族で生活習慣の見直しに関心を持つようにしたい。私も年齢を重ねる毎に記憶力は低下し、動きも鈍くなり薬も増えている。健康管理に積極的に関わることはもちろんだが、認知症ばかりでなく年齢相応の病気等とは自分自身の一部と捉え仲良く過ごしていくと思うこの頃である。

教育情報

学校図書館

協議会県大会

石川地区のよさを実感

平田村立蓬田小学校長

石井里香

十一月十三日、ひらた清風中学校を主会場に「第七十回福島県学校図書館研究大会石川大会」が開催され、県内各地の教員や図書館関係者等、百四名が参加されました。

大会の主な内容は、蓬田小学校六年生とひらた清風中学校二年生の国語科の授業公開、三つの分科会での協議、「子どもたちの心に響く、読み聞かせ」をテーマにしたシンポジウムです。

参加者からは、「石川地区ならではのよさが光る素晴らしい大会であった」と称賛の言葉もあり、その言葉を聞くことができただけで、大成功だと感じております。

でもどうして、そう思っていただけなのでしょう。それには、二つの理由があると考えます。

まず一つ目は、石川地区らしい県大会だったということです。どこが石川地区らしい

かというところ、シンポジウムで石川町、平田村、古殿町の読み聞かせボランティア団体様にご協力をいただいたことです。学校図書館の大会では、その地区にゆかりのある作家の講演が行われるのが一般的です。しかし、石川地区ではそれは難しい状況でした。そこで、素晴らしい実践がある読み聞かせボランティア団体様に実践を発表していただくことにしました。

「石川読み聞かせの会」様は箏による弾き語り「花咲き山」、お話ボランティア「夢工房」様は紙芝居「遅沢地蔵」、読み聞かせ会「あのね」様は紙芝居「鎌倉岳と見岳姫」を発表してくださいました。

地域に関する昔話や初めて聞く弾き語りに、大人の参加者も、本の世界に引き込まれ、お話を楽しんでいる様子がかがわれました。また、実践発表後のシンポジウムでは、小学校での読み聞かせに対する熱い思いを話していただきました。子どもたち、学校、地域を愛する気持ちが伝わってきました。このように、学校に協力してくださる地域の方がいることが、石川地区の強みだと感じました。

二つ目は、率先して動く校長先生方がいたことです。各校の校長先生も大会の実行委員です。前日までの準備や当日の運営を率先して行っていただけのおかげで、小規模の石川地区でもたくさんの方を迎える県大会を開催することができたのだと思います。校長が一枚岩になっているところも石川地区の強みの一つだと感じました。



はじめは、石川地区で県大会を開催することに不安がありました。でも、石川地区のよさを広めることができ、今はよい経験ができたという思いです。ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

現職・退職校長研修会

出張イシニクル

岩石展示場・・・

石川地区小中学校長協議会副会長

石川中学校長 石沢泰蔵

令和六年八月二十日に開催された退職校長・現職校長合同研修会に参加させていただきました。講話は「石川町立歴史民俗資料館移転オープンにあたって」。退職校長会の会員でもあり、イシニクルの創設の要となつて活躍された小針良仁様より、当のイシニクルを会場にしてお話しいたゞき、とても濃密な学びの時間となりました。

イシニクルのオープンを誰よりも望み、ご存命であれば最も喜んだであろう三森たか子先生のお話を講話の最初にされたのは、三森先生の積年の思いを知り、ともに取り組んできた小針先生だからこそだと拝察いたしました。

また、岩石の組成というミクロから石川町や古殿町の衛星写真で見る地形の特徴というマクロへの飛躍。岩石のできた歴史を千年、億年というスパンで捉える感覚。この地上で最も無機質で物言わぬ苦の石たちに代わって、小針先

生が饒舌にその物語を「通訳」されたかのようでした。そうした知識と興味を持って施設見学に臨むと、この日が三度目となる、私にとつてのイシニクル訪問が、新たな発見と

気持ちの連続となりました。この研修を終えて石川中学校に帰ると、これまで何気なく通り過ぎていた場所です。石たちの声に気が付き、思わず足を止めることになりました。それは石川中学校岩石園です。



石川中学校岩石園 (11月)

岩石園は、統合を新たな創立として始まった昭和五十二年度には既に設けてありました。それからの約五十年は、展示された石たちにとっては瞬き程にもならない時間であり、設置された時の姿のままの人々に見つめられることを待っているかのようです。

今回のご講話をいただいたことで、イシニクルと石川中学校岩石園が、見る人の知識と関心で繋がってほしいという願いを抱きました。

各クラブ活動紹介

文化財クラブ

蛭田重経

十一月十四日好天の下、八名の参加者により、「浅川町文化財巡り」を実施しました。

計画、案内等全てを担当してくださった浅川町文化財委員長奥貫四郎先生のご尽力で、充実感に溢れた素晴らしい文化財巡りとなりました。

開会行事を浅川町公民館で行い、浅川町教育長・吉田富三記念館長の真田秀男先生にご挨拶をいただいたことは光栄でした。

狛犬（飛翔獅子）を白河市東の鹿島神社と棚倉町一色の鐘鑄神社で、浅川町小貫で県内で一体のみの宥貞法印（即身仏）を、浅川町歴史民俗資料館で浅川の花火の展示資料、静寂な森の中に鎮座する五知



如来を見学後、白河国際カントリークラブで絶品の昼食。

午後は浅川町が一望できる城山公園と山城の浅川城址。吉田富三記念館でがん研究の博士の偉業に感動！奥貫先生に感謝しつつ、無事終了できました。

書道・絵画クラブ

吉田相康

書道絵画クラブは、今年度も各個人による創作活動や芸術鑑賞に取り組んでいくことになりました。

昨年の春、水色基調でさわやかな睡蓮のチラシに惹かれて、郡山市立美術館の「印象派モネからアメリカへ」を鑑賞してきました。平日でも入場を待つ車が行き交う中、実際の鑑賞まで一時間近くかかりました。モネ自体の作品数は少なく、サイズもさほど大きくはありませんでしたが、淡い色彩で光の印象を大胆に表現し、観る者に強烈な印象を与える作品でした。絵画の知識や鑑賞のノウハウは全くありませんが、作者がどんなメッセージを伝えようとしているのかを自分なりに解釈しながら、全体的に明るい色調の作品を堪能することができ

ました。

人間の脳は、美しい景色や芸術作品を見ると幸福感やリラックスした状態になり、ストレスの軽減や精神的な健康を向上させる働きがあるそうです。さらに想像力や直感力、表現力（語彙力）、知覚力も磨かれるとのこと。今後余計な先入観を持たずに作品を鑑賞し、作品の背景や意味、作者の世界観や思想と対話を重ねながら、豊かな人生を送っていききたいと思えます。

ゴルフクラブ

館 初浩

今年も勤労感謝の日に、白河国際カントリークラブにおいて、恒例の退職現職親善コンペを実施しました。天候にも恵まれ、参加十六名（退職者十四名、現職者二名）でのコンペとなりました。

開会式では富岡高春会長に続き、現職者を代表し玉川一小双里義和校長先生にご挨拶を頂き、五組に別れてのスタートとなりました。

晩秋の、穏やかな静寂を破る歓声や悲鳴が時折聞こえる中、ボールの行方は、神のみぞ知る、珍ショットにナイスショットと、笑顔溢れる時間

を共有しました。栄えある優勝は、川崎真裕様、バスグロは渡邊宏文様でした。

地区内の学校数の減少もあり、ここ数年参加者が減少傾向にあります。現職者の参加範囲を広げるのも一案かと思われまふ。すでに、来年の勤労感謝の日は予約済みです。



野草・園芸クラブ

西牧 敏幸

令和六年度の園芸野草クラブの研修会は、石川町立野木沢小学校体育館で、十一月二日（土）に実施されました。昨年度は、春に実施しまし



キイジョウロウホトトギス

たので、今年度は、深まる秋を感じさせてくれる「秋の展示会」を鑑賞したいと考えました。南東北山草会長に問い合わせたところ、野木沢地区文化祭において開催されると知りまふ。そこで、クラブ員が現地に集合し、研修することになりました。

会場には、暑い夏を細心の気配りをして栽培された山野草が数多く展示されていまふ。葉・茎を枯れさせないための日陰の工夫、植生にあった管理の仕方など努力しているとのこと。会員の方が「四角鉢より丸鉢にすればよかった」との言葉を聞いて展示に対する思いを感じまふ。地区の人と接することもでき有意義な研修となりました。

研修旅行

仙台・松島旅行記

川崎 真裕

昨年に続き今年も松風石川会旅行に参加させていたいただきました。ベニマル石川店に集合し予定通り出発。他県に居を移し今回を最後の旅行とする田中孝平氏や始めて参加された内田賢壽氏を加えた十五名が和気あいあいマイクパスに揺られていまふ。

今年のテーマは「温故知新・仙台・松島 歴史文化ふれあいの旅」です。最初の見学地は瑞巖寺。総門から本堂への途中、供養場の洞窟遺跡群を見、広々とした参道から中門、中門前で記念写真を撮り、国宝の庫裡を通って本堂に入りました。本堂の室中の間から始まるふすま絵はどの部屋も見事。建物も格式の高さを誇るもの。見学を終え参道に戻ると津波到達地点の掲示板。松島特有の地形や湾内に浮かぶ島々のおかげで参道の半分位の所にとどまり被害に遭わなかつたそうです。十三年が経つ今、多くの観光客で賑わっていました。

次に松島湾に浮かぶ重要文化財の五大堂。この日は天気



が良く、少し歩くと汗ばむ暑さの中、橋の隙間から海を見る透橋を渡り日本三景・松島の景色を眺めました。昼食ではさすが松島と海の幸を堪能し、午後は伊達家から寄贈された国宝や重要文化財などを収蔵・展示する仙台市博物館でした。今年四月に大規模改修から開館し、展示・鑑賞環境の向上や施設の充実が図られた展示物を見学しました。仙台の歴史を六つのゾーンで総合的に紹介する展示室が興味をそりました。

他にも見所が多くある仙台市、日帰りでは時間が限られますが、それでも満足のかく旅となりました。松風会の旅行、多くの方に参加いただければ更に楽しいと感じ、帰路に着きました。

健やかライフ

吉田 和夫

現在のわたしの健やかライフは毎日こども園に勤務することです。定年退職前そのほとんどの期間が中学校勤務だったので、こども園への着任当初はギャップが大きくて戸惑うこともたくさんありまふ。しかし、園児の笑顔に癒されたり先生方の園児の成長を温かく促す姿を見たりするうちにこども園での勤務にも徐々に馴染んでいまふ。恥ずかしい話ですが中学校勤務時代はこども園の先生方の仕事はほとんど理解していまふ。当然中学校とは教育のねらいや教え方などは違いますが、先生方の毎日の事務的な仕事は教材研究や行事の企画立案、保護者対応、危機管理等中学校とほとんど同じです。

職種が異なる教育施設に勤務することによって視野を広げることができまふし、その立場に立たないと理解が深まらないことも実感しまふ。そんな現在の状況で最近特に感じていることは、子どもが成長するまでは一貫した教育が大切だということです。

こども園の立場で言いますと、以前から文部科学省も重要視している「幼保小の架け橋期」と呼ばれる年長から小学一年の時期の園小連携が大切であるということです。特にこの時期は学習の基盤となる学習の芽生えを培う時期であり、園小がお互いの教育を理解し合い連携して指導しなければなりません。また残念な結果ですが、文部科学省の統計データによりますと不登校の低年齢化が進み、令和五年度の小学一年生の不登校児童数は令和三年度の二倍以上だったそうです。この増加率は中学三年生までの中で一番高い値です。

このデータから生活面での指導についても連携しなければならぬと考えています。幸い学区内の小学校の先生方も同じ認識を持っているので、効果的な連携を目指して協力しながら少しずつ進めているところです。子どもを育てるためには幼少期から一貫した教育の積み重ねが必要で、長い時間をかけて実を結ぶことを実感している今日この頃です。



現役でがんばってます

富岡 信

二年前に定年退職し、再任用で校長として小平小学校に勤務しております。初めて小学校に勤務し、新たな発見がたくさんありました。教職員のきめ細かな丁寧な指導、児童の純朴さや知的好奇心の旺盛さ、保護者や地域の子どもたちへの愛情あふれる思いなど。改めて子どもは宝だと実感しております。しかし、担任が教室から職員室に戻ってこない忙しさ、一回の授業のために全教科の教材研究に費やす時間。また、新たに身に付けなければならぬ外国語やタブレットのスキル。先生たちの努力に頭が下がると同時に、変えていかねばと感じております。余剰時数削減や教科担任制など、できることから変えていきたいです。子どもたちの笑顔や先生たちとの会話から、やりがいを感じエネルギーをもらっています。純朴な子どもたちに教えたり、一緒に活動したりすることが楽しいです。ただ、モチベーションが下がるときがあります。それは給料日です。教頭先生より十万円以上

低かったり、ボーナスが初任者とはほぼ同じだったり。わかっていても、寂しいものです。これからの六十歳以降勤務者の処遇改善にも尽力したいと思っています。やりがいを維持するため、健康や体力をどう維持していくのかと考えます。家族のことを第一に考えながら、休日を有効に使うようにしています。誘っていたとき、約三十年ぶりにゴルフでラウンドしました。たくさんたいて迷惑をかけていますが、楽しみなが今年「120」を切りたいと目標を立てています。また、山登りにも出かけています。若い頃は、東北と四国が一番高い山に登ったりしていました。今は、近くの平田村の蓬田岳、古殿町の鎌倉岳、田村市と小野町の境にある高柴山から始めています。少しずつ中級コースにもチャレンジしたいと思っています。

現職・退職校長会の両方に所属し、どちらの席に座るのかいつも迷いますが、少しでも両会のつなぎ役になれば幸いです。「人の役に立てる価値のある人」を目指して過ごしたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

ボランティア活動

相樂 正弘

社会福祉法人石川福祉会所管の特別養護老人ホームは敷地が広くゆとりを感じさせます。その分、建物周りの除草には多くの労力を費やされています。各施設へは、二年に一度のボランティア活動ですが、職員の方々は、退職公務員連盟と退職校長会の共催によるボランティア活動を待ち望んでいることが分かりました。令和七年度は、石川町の「さくら荘」からの開始を予定しておりますので、ご協力をお願いします。



編集後記

もう昨年になるが、ある新聞の小欄にローリングストーンズが18年ぶりにアルバムを出したという記事が載っていた。言わずと知れたビートルズと並ぶ60〜70年代に活躍したロックバンドだ。ボーカルのミックジャガーは御年80歳。元々しわくちや顔のミックがさらにしわくちやになったと▼この長寿バンドのファンクラブ会長(70)が「老いても衰えも変容が人間らしくて魅力的なんです」と、「ずっと一緒にきたけど、今の彼らが一番好きですね」とも▼昔の曲の難しいところは音を間引いて演奏する。著名なアーティストを助つ人として呼び、共演する。老いや衰えを自ら認め、その上でクリエイティブに活動する。なんとも力みがないいい感じだとか▼自分の老いに抗うことなく、自然体でできることをやっていく。今ある日常を「余さず暮らしていく」。そんなことを感じさせられた▼さてさてビートルズが聴きたくなった。私はどちらかというとビートルズ派だ。こちらのポールも御年82歳だそうだ・・・

担当 渡邊 良一